



項目

- 活動情報
- 8月のコメント—
- 維持管理に支えられる浄化槽
- 高浜市で取材しました
- エコひまわり—
- NPOたかはま—



←9/1 碧南市民病院の屋上から油ヶ淵下池（高浜川方面）を撮影。

この夏は冷夏ということで過ごしやすい日が続きましたが、その分、今後の農作物や自然への影響が心配されます。やはり夏は夏らしい方がいいようです。

9月初めに油ヶ淵の写真を撮るため、碧南市民病院の屋上に上ってみました。早くも空はすっかり秋めいて、どこまでも抜けるように青く、油ヶ淵の湖面も空を映して青く穏やかに輝いています。視点を少し変えただけで、新たな世界が開けてくることにちょっとだけ感動しました。（川村）



活動情報

●8月のコメント

・釣りが糸をたらして波静か。鵜が数羽で湖上の空が寂しい。（下池・西岸）
 ・水流、水量多い。藻の繁殖も盛ん。（種田川・鮫川・上流）
 ・8月に入っても梅雨が明けていないため、河川の水かさは高い状態であった。（長田川（沢渡川））
 ・水が濁っている。いつものコイがない。水生生物が見えたらいい。（長田川・神橋）



今年の“油ヶ淵つり大会”のポスターを撮影しました。楽しいつり、でもゴミ持ち帰りは大切です。



維持管理に支えられる

浄化槽

8月某日、愛知県指定の法定検査機関である財中部微生物研究所が行う法定検査に同行しました。

蒸し暑い中、法定検査員の大場さんと向かったのは、安城市内の個人宅。まず、大場さんは、受検する方（お客様）に法定検査の趣旨や手順を説明します。そして、お客様から何か紙を数枚、受け取りました。

その後、マンホールのふたをヒョイと開けると、「ふあ」と、小さな虫数十匹が飛び出しました。「今回はまだ良い方で、ひどいときは、開けると同時にプフッと大量に飛んできます。点検に殺虫剤は必需品です。」と大場さん。また、排水が流れ込むあたり（沈殿槽）には汚泥がプカプカ浮き、その汚泥の中にも小さな虫がウヨウヨ。「彼らは私たちの出したウン〇などの汚れを食べて生きているんだな。」と、ちょっとドキドキしながら、



再度、おそるおそる槽の中をのぞき込んでみる私。そんな間にも、大場さんは浄化槽の空気バルブの点検、消毒剤の点検、水質試験、持ち帰り検査用の放流水の採水、と、着々と検査を進めています。あれれ？大場さんの姿がない。と焦っていたら、玄関脇の狭い通路からヒョコッと姿を現した大場さん。「排水路も見てあげないと。詰まってるからでは遅いですからね。」

点検の最中、大場さんは初めにお客様から受け取った紙をチラチラ見えています。「お客様が数ヶ月に一度、保守点検業者に委託して行っている保守点検の記録です。」保守点検記録で指摘されている不具合の根本的な原因を指摘してあげるのも、法定検査の役割なんです。

そう、まさしく、法定検査は、浄化槽の「人間ドック」。年に一回の法定検査は、法律で定められた浄化槽管理者の義務です。あなたのお宅の浄化槽も法定検査で健康に、キレイな浄化槽排水で油ヶ淵も健康に。（臭水地盤環境課 清水）



8月6日に高浜市の「エコひまわり」とNPOたかはまを取材しました。

▼エコひまわり

メンバーは4名、高浜市のゴミ処理基本計画推進会議に参画している仲間だそう。



この日はメンバーの岡本さんの調査に同行させていたできました。右下の写真で右側が、岡本さんで、透視度調査をしているところです。岡本さんは「今日の水の様子からすると、透視度は結構いい。」と驚かされた様子で水を抜いていきます。それがほぼピッチリでした。この日は、38cmでした。エコひまわりの皆さんからは、次代を担う子どもたち

ちに地域の川での水質調査を経験して水質浄化の大切さを知ってもらいたいとの意見も出て、皆さんの稗田川にける心意気をひしひしと感じました。岡本さんには、稗田川の上流から下流までを案内していただきました。特に印象的だったのは、ふちもにグループ「ひえ田川クラブ」で活動される高取小学校の横の河川改修現場でした。真新しい階段を下りると、川の浅瀬が子ども達の遊び場にちょうど良い感じ。子どもが川に親しめる空間ができて、今後が楽しみです。」と岡本さん。川沿いにある高取小のプールには、「大好き 稗田川」と書かれた看板も設置されていました。この場所について、後で驚くべき体験をすることになります。



▼NPOたかはま

代表の神谷さんらを探ねて、高取小に隣接するNPOたかはまの拠点「悠ゆう館」に取材に伺った時は、地域のお年寄りのために昼食サービスをしているところでした。私たちも食堂でこ相伴。美味しいうどんと芋煮つすいに舌鼓を打ちました。

この日の神谷さんは、午前中に食事づくり、午後には稗田川と高浜川の水環境モニタリング調査、朝夕の畑仕事なのだそう。また、メンバーの杉浦さんは、NPOたかはま内の「清流会」の会長さんです。

油ヶ淵流域水環境モニタリング調査は、主にこのお二人が担当され、この調査で受け持つ2地点の他に、清流会独自の2地点も合わせて調査しています。

高浜市の市街地を流れる稗田川中流付近の地点では、以前にアユが獲れたのだとか。「食べられましたっ」と質問す



ると、「別に普通だったよ」と杉浦さん。稗田川が高浜川に合流して海に注ぐ途中には水門があるのにも関わらずアユが遡上するのですね。油ヶ淵から海への距離は近いんだと実感しました。

また、今回、伊勢湾流域の水質調査のため、たまたま取材に同行した愛知県水地盤環境課の木和田主査が、悠ゆう館の壁に「稗田川河川改修計画」を描いたパース図を発見(驚!)。数年前に木和田主査が河川課所属の時に担当したもので、今まさに完成間近の現場と見比べて感慨深い一回でした。

高取小の横に新しくできる水辺空間に来年は子ども達の歓声が聞こえることでしょう。

(川村・多賀)



油ヶ淵流域市民モニターング
ふちもに情報局 vol. 25
平成21年9月発行

発行
愛知県環境部水地盤環境課
調整・生活排水グループ
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目 1-2
電話
052-954-6219(タ・ヤルイン)
Mail:mizu@pref.aichi.lg.jp